

■西都原発 考古学ノート

—おすすめの一品—

平成26年4月。宮崎県立西都原考古博物館は開館10周年を迎えた。

この節目の年を迎えるにあたって、当館では、西都原古墳群発掘100年・西都原考古博物館開館10周年記念特別展「西都原の100年 考古博の10年 そして、次の時代へ」を開催している。この特別展は年間を通して、Ⅰ～Ⅳ期の4つのテーマで展開される。西都原古墳群の100年の歩みを振り返り、発掘調査や資料の調査・研究の成果を紹介し、西都原と言えば…のあの有名な重要文化財「埴輪子持家」や「埴輪船」、そして宮崎県唯一の国宝である金銅馬具類が里帰りする等、盛り沢山の内容となっている。

展示会には、かならず目玉がある。現在開催されている展示会Ⅰ「西都原の逸品たち」の場合は、やはり国宝金銅馬具類や重文の埴輪子持家・埴輪船であろう。これに勿論異論は無いが、ここで、今回私が見つけた“おすすめの一品”を紹介したいと思う。

私は、展示会資料借用の関係で、東京国立博物館所蔵で、現在は九州国立博物館が保管・展示している切妻家形埴輪をじっくりと観察することとなった。写真記録を撮る際に、ファインダーを覗くとあることに気付いた。家の妻側の片面だけにある長方形の透かし孔が、真ん中ではなく、少し右寄りに付いていることに…。私は思わず「かわいい。」と言ってしまった。この“かわいい”という感覚はよくわからないと当館の学芸員仲間からは言われるが、借用でお世話になった九州国立博物館の学芸員の方は、私の言葉に付き合ってくれて共感して下さった。話しが脱線してしまっただが、この埴輪を作った人は、この小窓をどんな気持ちで付けたのかなあ…。そんなことを考えると、とてもワクワクした気持ちになって、古代人のお茶目な一面を見たようで、この埴輪に愛着さえ湧いてきた。



日頃なかなか目にすることのできない資料が一堂に会する特別展示会Ⅰ「西都原の逸品たち」。展示資料のその芸術性の高さや緻密さ、そしてその美しさには驚かされる。

西都原の花のシーズンはしばらくお休みですが、初夏の風にさそわれて、博物館をのぞいてみてはいかがでしょうか？そして自分ならではの“おすすめの一品”を探してみてください。

(高橋浩子)